

これからの行事予定

病院周辺美化事業 花壇整備



今年も、公立芽室病院周辺の花壇を整備して花苗を植えます。

700株を超える花苗、ペコニア・マリーゴールド・サルビアなど多彩な花苗が準備されています。

あとは、当日の天気とたくさんの手があれば万全です。

作業は2時間程度を予定していますが、皆さんと“ワイワイガヤガヤ”楽しみながら作業できたら良いなあ~!!と期待していますので手にシャベルをもって集まってください。



とき 6月15日(土曜日)
雨天の場合は翌16日
集合 公立病院正面玄関前
午前9時00分



生け花ボランティアが活動しています

今週は、石楠花と



ことばの勉強 ②

<混合診療>

医療には、保険がきく(保険診療)ものと保険がきかない(保険外診療)ものがあり、1つの病気の治療に保険診療と保険外診療を併用するものを「混合診療」と呼びます

日本の保険制度では、健康保険で診ることができると診療(薬や材料も含む)の範囲を限定しています。健康保険の範囲内は健康保険で賄い、範囲外は患者自身が費用を支払うことで費用が混合することを意味しているが、この混合診療は現在日本では禁止されている。

<日本医師会ホームページ参照>

小児救急冊子配布説明会

冊子「病院へ行く、その前に・・・」の配布活動をしています。

子供の急な発熱の時などの対処法などが書かれた冊子を配布し、その内容の説明をしています

育児グループ、ママ友の集まりなどに出向きます。希望の方はお問い合わせください。

問い合わせ 62-1439 [鳥本]
62-4081 [片桐]

事務局通信

会員募集中

随時募集しています。

会員数(5月1日現在) ・一般会員 197名 ・団体会員 1団体 ・法人会員 9法人

★年会費 1,000円

公立芽室病院を利用している人 } そういう人なら
公立芽室病院を大切に思う人 } どこに住んでいても
お医者さんや看護師さんを応援したい人 } OKです

★問い合わせ 62-1439(会長宅) 62-2516(事務局)

公立病院事務局でも入会できます

支える会 っうしん

公立芽室病院をみんなで支える会広報
第6号
2013年5月発行

平成25年度 定期総会が開催されました

2013年4月25日(木曜日) めむろ一ドセミナーホールにおいて齊藤明彦副町長を来賓にお迎えして、38名の参加により『公立芽室病院をみんなで支える会 定期総会』が開催されました。

最初に、鳥本ヒサ子会長は、あいさつの中で、過年度実施した活動への会員の協力に対する感謝と、会の活動が、病院の経営や医師の移動による医師不足の問題に、ただ傍観するだけで一喜一憂しているもどかさや不安を抱えているという現状を語られました。

つづいて、議事では、三寺邦宏さんを議長に、24年度の事業および会計について、実施できたこと、実施できなかったことの報告がありましたがすべて承認を頂きました。

また、25年度の事業計画および会計予算についても役員会提案のとおり決定しました。

次に、役員改選についてが議題となり、平成25年度および26年度の新しい役員が選出され、その後、会長により幹事が指名され全役員が下表のように決定しましたので皆さんにご報告いたします。



25・26年度 役員 幹事

会長	鳥本ヒサ子	再任	幹事	尾田憲子	新任
副会長	片桐和江	再任		澤尻啓子	再任
	安藤功	新任		曾根義継	再任
会計	江口美生男	新任		中村りつ子	新任
事務局	村上哲也	再任		野澤隆男	新任
	佐藤正行	再任		堀井ゆり子	再任
監事	佐藤得男	再任		本田景茂	新任
				前山左絵	再任
				武川清作	新任

引き続き開催された 交流親睦会

総会終了後、同会場において『交流親睦会』が開催されました。

親睦会には、公立芽室病院から小窪院長、谷垣副院長、武田総看護師長、大野事務長をはじめとする多くの職員の方にも出席を頂き、加えて宮本名誉院長にもご出席頂き11名の方が参加下さいました。普段の病院の先生と患者・利用者という関係とは違う立場でいろいろな話を聞き、またお話しさせて頂きましたが、むしろ、先生や看護師さん、職員さんも町民の方たちと、普通にいろいろなことを話したいということが伝わってくる、非常に和やかな時間となりました。

次回もまた、このような交流会を企画致しますので多くの会員さんの参加を期待したいと思います。

第1回 紙上アンケート調査

公立芽室病院について会員さんの声を聞かせて下さい

あなたの 年齢 (才) 性別 (男性・女性) 芽室町での居住歴 (約 年)

1) あなたの公立芽室病院の利用状況について

- ① どれぐらいの頻度で公立病院を利用していますか
- ア. 毎週 (1回 数回)
- イ. 毎月 (1・2回 4・5回 10回前後)
- ウ. 年に (1・2回 数回)
- ② 受診する先生 (医師) を決めていますか
- ア. いつも同じ先生に診てもらうことに決めている
- イ. できれば同じ先生に診てもらいたいと思っている
- ウ. 特にこだわっていない
- エ. 早く診てもらえる先生で受診している

2) あなたの“かかりつけ医”について

ここで言う“かかりつけ医”とは、
普段、あなたが最初に診察のために訪ねる病院とします。

- ① あなたは、かかりつけ医と決めた病院がありますか
- ア. ある
- イ. ない
- ② あなたのかかりつけ医はどこですか
- ア. 町内の個人病院
- イ. 町外の個人病院
- ウ. 町外の総合病院
- エ. 公立芽室病院

3) 公立芽室病院について、あなたが思うところを自由に書いてください

- ① 公立芽室病院の良いと感じるところはどこですか
-
- ② 公立芽室病院の良くないと感じるところはどこですか
-
- ③ 公立芽室病院に期待することがありますか
-
- ④ 公立芽室病院に不安に思うことがありますか
-

上記の設問についての回答をお寄せください。

(投稿方法) 事務局・・・FAX 0155-62-1892 / メール murakami@murakamikensetsu.co.jp
意見箱・・・公立病院受付ロビーに設置してありますので、投函してください

教えて! 支える会コーナー

病院や支える会に対する素朴な疑問にお答えするミニ情報コーナーです。

教えて
公立芽室病院の漢方医学のこと!



なぜ?今「漢方」が注目されるの?



「漢方」というのは、日本に5世紀ごろ伝わった漢方処方薬、生薬、医学が日本独自に発展したといわれています。漢方の診察では、舌や脈、おなかを診ます。このおなかを診る「腹診」は、日本で重視され発達した診察法といわれているそうです。

健康保険が使えることになったことで、より漢方薬が身近になり、病医院で漢方薬を処方するケースが増えました。(2012年3月現在、148処方の漢方薬が健康保険で使えるようになっています。)西洋薬と漢方薬が一緒に処方されることにより、幅広い治療が可能になるのではないかとわれています。



インターネットで全国各地の「漢方医学」のできる病院を検索してみると公立芽室病院が出てきます。数少ない病院のひとつにあげられています。

西洋医学と漢方医学の違いってなんなのでしょう? 「漢方医学」というのは、漢方薬を処方する際に目安にするのが、その人の体質です。その体質を判断する“ものさし”の一つに「気・血・水(き・けつ・すい)」というものがあると考え(この「気・血・水」という考え方が日本では重要視され漢方医学の中心的概念となっているといわれています。)

- ・自然科学的で伝統的医学である先人の治療経験の集積
- ・心とカラダを一体としてみる体全体の調和を図る“全人的医療”
- ・個人の体質・特徴を重視し、症状をみる原因が特定できないものや、“未病”の状態でも治療できる
- ・天然物がベースとなった生薬を混合した「漢方薬」を使う1剤に複数の成分が含まれているため、複数の症状にも効果が期待できる

病気に対して西洋医学の実証的かつ科学的なピンポイントで治療する方法とは違うが、双方の良さを生かすと相乗効果が期待できそう

今では、大学の医学教育カリキュラムのなかに、漢方を学ぶ項目が新たに加わり、これにより、医学生は卒業までに漢方独特の概念や診断法、漢方薬の使い方などについて学ぶことになりました。

しかしながら、授業だけで漢方医学の細かい部分までを習得することはできません。

そこで、医学部を卒業した後も漢方を学べる「卒後教育」というものがあり、卒後教育のためのプログラムが用意されている医学部や医科大学、一般の総合病院などで、漢方に興味を持った医師や研修医が漢方の知識を習得しています。

公立芽室病院もその漢方を学べる病院に指定されていて意欲ある医師が漢方を学ぶために赴任して来る可能性のある病院となっています。

